キリスト教のサガ[1)]

金　子　靖　孝

1．広く旅をしたソルバルドと司教フリズレークについて

さて，どのようにしてキリスト教がアイスランドへやって来たかは，コズラオンの息子でソルバルドという名前の男，つまり容赦ないアトリの甥以来始まる。彼等（コズラオンとアトリ）は鷲のエイリーフの息子達で，エイリーフはアオッル出身のバオルズの息子で，バオルズは狐のケティルの息子で，狐のケティルは老スキィーズィの息子だった。コズラオンはヴァトゥンスダールのギルヤオに住んでいて，声望のある男だった。彼の息子のソルバルドは外国へ行き，最初は略奪に加わり，彼は分配を受けると，自分で支出する必要の無いすべてを捕虜となった人々に身代金として与えた。それによって彼は名声を得て，人に好かれた。ソルバルドは広く南の国々[2)]を巡る旅をした。彼は南のザクセンでフリーズレイクという司教に会った，そして彼によって洗礼を施され，正しい教えを受け，しばらく彼と一緒にいた。ソルバルドは彼の父と母及び彼の忠告に従うつもりの彼の親戚や友人達に洗礼を施すために自分と一緒にアイスランドへ行くことを司教に頼んだ。司教はその事を承諾した。司教フリーズレイクとソルバルドは国が植民されて１０７年[3)]たったアイスランドへ夏に行った。その当時は月のソルケルが法を話す人の職を占めていた，次の人々はその当時国で最有力の首領達だった：

北ではヴァルゲルズの息子エイヨールヴ，殺しのグリム，老婆のような鼻のアルノール，考え深いベズバールの息子のソルヴァルズ，グーズダールのスタリイ兄弟とヴァトゥンスダールの手を微かに動かすソルケル，当時西ではマオの息子のアリ，クネットの息子のアオスゲイル，灰色のエイヨールブ，賢者ゲスト，孔雀のオーラブ，殺しのスティール，首領のスノリは１８才で，そしてヘルガヘルの屋敷を受け継いでいた，エギルの息子ソルステイン，赤いイルギ，南では月のソルケル，首領のソーロッド，白のギツール，エリーズ・グリムの息子アオスグリーム，スケッグの息子ヒャルティ，ホークのヴァルガルズ，ウールフの息子ルヌールフ，スコーグのエルノールの息子達，東ではフレイ[4)]の神殿の神官である首領ソールズの息子達，シーザ・ハル，アオスビェルンの息子のヘルギ，殺しのビャル

ニとゲイテイだった。司教とソルバルドは北地区へ行ったと語られている，そしてソルバルドが人々の前で信仰について話した，というのは司教は北欧語を理解しなかったからなんだ。しかもソルバルドは物怖じしないで神の教えを伝えた，しかし多くの人々は彼らの言葉をほとんど受け入れなかった。キリスト教徒のエーヌンド，グレンヤーズの息子であるレイクダール出身のソルギルスの息子，老フレニイ，タスカバックのオルムの息子，ヒャルトダールのアオスの考え深いベズバールの息子ソルバルズが信仰を受け入れた，しかしヴァルゲルズの息子のエイヨールブは一時的な洗礼を受けた。

2．ソルバルド一行のキリスト教伝導について

司教とソルバルドは最初の冬は十三人の男と共にギルヤオのコズラオンの許に滞在した。ソルバルドは彼の父に洗礼を受けるよう頼んだ，そして彼はいやいやながら応じた。ギルヤオに親戚の者達が崇拝し，そこに守護神が住んでいると言われた石があった。コズラオンは司教或いは石の中の守護神とどちらが力があるか，彼が知る以前には洗礼を受けないと言った。その後司教が石の所へ行き，石が割れる迄祈った。その時コズラオンは守護神が負かされたことが解ったと思った。それでコズラオン自身，彼のすべての雇い人達は洗礼を受けた，彼の息子のオルムだけはキリスト教を受け入れようとはしなかった。彼はそこで南のボルクフィヨルドへ行きクヴァンエイルに土地を買った。オルムはエーツウルの娘ソールヴェルと結婚した，エーツウルの妻ベラは禿のグリムの息子のエギルの娘だった。彼等の娘はイルギの息子ヘルムンドと結婚したイングヴィルドだ。その後オルムはデュープダール出身のステインモーズの娘ゲイルレーガと結婚した。彼らの娘はソルステインの息子スクーリイと結婚したベラだった。司教とソルバルドはヴィーズィダールのレイキャモットに家を建て，そこに四年住んだ。彼らは教えを知らせるためにアイスランドじゅうを回った。司教とソルバルドはギルヤオのヴァツダールの秋の饗宴にオーラブと一緒にいた。その時そこには手を微かに動かすソルケルと他の多くの男達がやって来た。そこにどちらもヘークと呼ばれる二人の凶暴な男[5]がやって来た。彼等は男達に暴力を加え，大声でわめきながら歩き，火の上を歩いた。その時人々は彼等を打ち負かすことを，司教に頼んだ。その後で司教は彼等が渡る前に火を払い清めた，彼等はそれであっという間に火が付いてしまった。その後人々は彼等に襲いかかり，打ち殺してしまった，そして彼等は峡谷の隣の山へ運ばれた。それ故そこはその後ヘーカギルと呼ばれている。その後手を微かに動かすソルケルは一時的な洗礼を受けた。しかしその出来事に居合わせた多くの人々は洗礼を施された。ソルバルドと司教は教えを広めるため西フィィヨルド地区へ行った。彼は全島集会の時クバムのフィルセン・ソーラリンの所へやって来た，そして彼は集会に行っていた，しかし彼の妻のフリズゲルズと彼らの息子のスケッギイが家にいた。ソルバルドは人々の前で教えを話した。だがフリズゲルズはその間神殿の中にいて，犠牲

を捧げた，そしてどちらも相手の言葉を聞いた，さらに若者のスケッギイは彼らを嘲った。そこでソルバルドはこの様な詩をつくった。

私はこの立派な知らせを朗読する。
いかなる人も私に耳をかさなかった。
我々は犠牲の血を飛び散らし，異境の神に仕える
者のところで憎しみを持った。
年老いた魔女は異教徒の祭壇越しに
節度を無くし私に叫んだ。
私の神が神殿の女神官を押し潰すように。

知る限り誰一人西フィヨルド地区では彼等の言葉によっても洗礼を受けなかった。しかし北地区では多くの人々が犠牲を捧げることを拒否し，彼等の偶像を破壊した，そして何人かの人々は神殿税を支払おうとはしなかった。

3．賢者ヴェズバールの息子ソルバルズの教会について

賢者ヴェズバールの息子のソルバルズはアオスの彼の屋敷に教会をつくらせた。それは異教徒だった人々にはとても気に入らなかった。バルズ出身のレーブの息子のソルバルドの息子のクレヴィーという男がいた。彼は首領だった。彼はソルバルズがとても気に入らず，彼はソルバルズの兄弟のアルンゲイルに会いに行った，そしていっそ教会を燃やすか或いは司教がそこに任用した聖職者を殺害することを彼の選択にゆだねた。その時アルンゲイルは，彼の兄弟がちょっとした行いにひどい復讐をしなかったので，彼は彼の友人の一人一人に聖職者に危害を加えることを放棄させた。教会を燃やすのを私はよい計画だと思う，だが私は加わるつもりは無い，と答える。その後間もなくクレヴィーは夜に出かけ，教会を燃やそうとした。彼等は全部で十人だった。彼等が境内に入ったとき，教会のすべての窓から火が吹き出ている様に彼等には思われ，それゆえ教会中に火が満ちている様に彼等には思われたので立ち去った。彼は教会が燃えなかったということを知ると，次の夜に彼とアルンゲイルは出かけ，教会を燃やそうとした。彼等が教会を壊し，彼が枯れた小さな白樺で火を着けた。火はゆっくりと燃え始めた。その時彼は腹ばいになり，敷居越しに息を吹きかけて火を煽った。その時矢が彼の頭越しにすぐそばに突き刺さり，二番目の矢が彼のシャツと皮膚の間に突き刺さった。そこで彼は飛び上がり，三番目の矢を待たないと叫んだ。そこでアルンゲイルは家へ帰った。キリスト教が法律でアイスランドに取り入れられる，十六年前[6]にその教会は建てられた。司教ボートールフがホーラルにいた時，それは建っていた，しかも芝生のプレートを除いて何も手を加えられていなかった。

4．ソルバルド一行がアイスランドを去ったこと

司教フリズレークとソルバルドは集会へ行き，司教はソルバルドに法の岩[7]の近くで人々にキリスト教の教えを話すよう頼み，彼は隣にいて，ソルバルドが話した。その時彼に名声のある男，エイヤフィヨルド出身のスバールバルズのヘズィンが多くの悪意ある言葉で答えた。ヘズィンはスカギの息子のソルンビェルンの息子だった。彼はヴァルゲルズの息子のエイヨールフの姪で養女のラグンヘイズを妻にしていた。その時彼等はスカルド[8]にソルバルドと司教を嘲笑する詩を作ることを頼んだ。それは次の様に詩作された：

司教は九人の子供を産んだ。
ソルバルドが皆の父親だ。

嘲笑ゆえソルバルドは二人の男を殺害した。何故お前は殺害したのか，と司教は尋ねた。彼等は我々二人が子供を持ったと話したからなんだ。彼等は我々二人を中傷した，しかしお前は彼等の侮辱的な言葉を歪曲している，というのは私はとても上手にお前の子ども達を従えることが出来るだろう(洗礼を施すことが出来る)，と司教は答える。そしてソルバルドと司教がヘグラ岬の集会へ行こうと思ったとき，異教の人々が彼等の方へやって来て，石を投げた，そのため彼等は前へ進むことが出来なかった。その後人々は異教の法に基づいて（彼等を）追放した。翌夏の全島集会で首領達は支持者達を集め，二百人の男達と共にやって来て，司教を家の中で焼き殺そうと思った。彼等はライキャモートの屋敷へ帰る前に，馬に草を食べさせた，しかし彼等が馬に乗ろうとした時，彼等の傍らから鳥が飛び立った。それに彼等の馬は驚かされ，男達は馬から落ちた。何人かは彼等の腕を折り，何人かは脚を折り，或いは彼等の武器で傷を負い，何人かからは馬が逃げてしまい，彼等はそういうことで家へ帰って行った。この人々の集まりに司教一行は後になっても気付かず，彼らは三年レイキャモートに住み，さらに一年住んだ。その後彼等はノルウェーへ行った。彼等はノルウェーに着いた時，港に入った。その時ヘズィンがアイスランドから同じ港にやって来て，すぐ木を切るため森へ行った。ソルバルドはそれに気づき，彼の召使いと一緒に出かけて行き，彼をそこで殺させた。しかし司教はそれを知った時，彼が復讐の念に燃えたので，彼等の交わりを終えようと行った。司教は南のサクスランド（ザクセン）へ行き、そこで死んだ，そして彼は本当の聖人です，しかしソルバルドはまずしばらくは貿易の旅をしていた。

5．司祭サングブランドについて

ゴルムの息子のハラルドの時にブレーメンの司教アルベルトウスがユトランドのアオ

ロースにやって来て，そこの司教座聖堂所在地に滞在した。彼の弟子はサングブランドという名前で，ブレーメンの伯爵ヴィルバルドの息子だった。サングブランドが大きくなった時，カンタベリーの司教フークベルトウスが彼の兄弟のアルベルトスを家に招いた。この宴会の時フークベルトウスはアルベルトウスと彼のすべてのお供に贈物を与えた。その時司教は，お前は騎士達と同じように振る舞っている，それ故私はお前に楯を与える，そしてその上に我々の神の肖像の入った十字架が描かかれている。それはお前の聖職者階級を現す，とサングブランドに話した。その後間もなくサングブランドはトリュグヴィの息子オーラブにヴィントランド（ヴェンド族の国）で会った。オーラブは，お前達キリスト教徒は十字架で苦しめられた誰を崇めるのか，と尋ねた。サングブランドは，我々の神を，イエス・キリストを，と答える。王は何のために彼は苦しめられたのか，或いは彼はどんな罪を犯したのか，と尋ねる。そこでサングブランドはオーラブ王に詳しく我々の神の殉教と十字架の奇跡について話した。その時王は楯を買おうとした，しかしサングブランドは彼に楯を贈った，そして王は彼に楯と同じ価値の純銀を与え，お前が何らかの保護と援助を必要とするなら，その時は私の所に来なさい，私はお前に楯のお礼をするだろう，と言った。その後間もなく王はアイルランドのシリー諸島で洗礼を受けた。サングブランドは銀でアイルランド人の美しい娘を買った，そして彼は彼女と家へ帰った，その時若い皇帝オットーにそこで人質にされていた若い男が彼から娘を取ろうとした，だが彼は手離そうとはしなかった。人質は腕のたつ戦士で，サングブランドに闘いを挑んだ，しかしサングブランドは勝利を収め，彼を打ち殺した。それ故にサングブランドはデンマークにいることが出来なくなった，そしてそこで彼はトリュグヴィの息子オーラブ王の所へ行った，そして彼は彼を親切に迎え入れた，そして彼はそこで司祭に任ぜられ，彼はしばらく彼の宮廷内礼拝堂付き司祭だった。

6．ソルギールの息子ステブニィのキリスト教伝導

オーラブ王はアイルランドから東のホルムガルズへ行き，彼のサガの中で書かれているようにホルムガルズからノルウェーに戻り，そこですべての国民にキリスト教を受け入れることを発表した。彼はモストと呼ばれる島に最初の教会を建てさせた。その島で彼はサングブンドに礼拝を行なわせ，彼に家畜と土地を与えた。彼はものすごい浪費家で気前がよく，彼の財産はすぐに使い果たされてしまった。それで彼は軍船を手に入れ，異教の人々を襲撃し，あまねく略奪し，その金を部下達に分け与えた。オーラブ王はゴーイの月（二月中旬から三月中旬）の初めにノルウェーに来た。彼と共に大勢のアイスランド人がいた。ステブニィというのがその一人だった。彼はエイリーフの息子のソルギルスの息子で，エイリーフはキャーラル岬のビョーラ・ヘルギの息子だった。オーラブ王はアイスランドにキリスト教の教えを伝えるため，ステブニィがノルウェーにやってきた最初の夏に彼をア

イスランドへ行かせた。彼がアイスランドへ行った時，人々は彼を歓迎しなかった，そして彼の親戚の者達が一番ひどかった，何故ならばすべての人々はその時この国では異教だったからなんだ，しかし彼はびくびくせずに北や南へ行き，人々に正しい教えを教えた，しかし人々は彼の教えに影響されなかった。そして何の成果もなかったと彼は気づいたとき，彼は異教の神殿と犠牲を捧げる場所を傷つけ，偶像を破壊し始めた。それで異教の人々は支持者を集め，彼はやっとのことでキャーラル岬にたどり着き，そこの彼の親戚の者達と一緒にいた。彼の船はグーファ川河口に上げてあった。それは冬に高潮と嵐で流されてしまった。それについて異教の人々はこの詩を作った：

今山からのひどい嵐がステブニィの船を
粉々にしてしまった。
山からの流れは舟の中を越えて流れる。
むしろ我々は，神々がそのようなすさまじいことを
惹き起こしたと，思う。
川は氷と共に荒れ狂いながら突進する。
神々の力が国を支配する。

彼の船が陸に漂着したが，少し壊れていた。ステブニィは春に修理させた。夏の全島集会でキリスト教徒の親戚の者達は彼等が五親等以内及び二親等以外のときには瀆神故に訴えるべきだと法律に取り入れられた。夏ステブニィはキリスト教故に訴えられた，何故ならばキリスト教はその当時一族の恥と言われていた。賢者オースヴィーブの息子達，ソーロールブとアオスケル，ヴァントラオズとトールラオズが彼を訴えた，しかしオースパークは関与したくなかった。私は私の罪によって不利益を受けないだろう，しかしこの訴えのためお前達には二～三年以内に大きな災いが起こるだろう，と話した。ステブニィは夏にノルウェーへ行き，オーラブ王は彼を歓迎した。

7．サングブランドのキリスト教伝導

オーラブ王はサングブランドが行った乱暴な振る舞いを知った時，彼を出頭させ，彼を起訴し，盗賊なので仕えるべきでないと言った。サングブランドは王に或種の難しい伝導を自分に課してくれと頼んだ。もしお前がアイスランドに行き，国をキリスト教に改宗させることが出来れば，我々二人は和解しようと，王は話した。サングブランドはそうしましょう，と話した。夏にサングブランドはアイスランドへ行った。彼はアイスランドの北の北極狐岬のアザラシ入江のもっと北のアオルフタフィヨルドに入った。サングブランドと彼の連れの者達がキリスト教徒だということを人々は知った時，彼等，つまり住民達は

話そうとしないし，彼等に港を教えなかった。その当時アウにシーザ・ハルが住んでいた。彼はフリョーツダルへ行き，彼が家へ帰った時，サングブランドが彼に会いにやって来て，私が東のフィヨルドへ上陸するよう，オーラブ王は私を貴方の所へ派遣したのだと彼に話した，そして彼に港を教えること，彼等の必要としている援助を彼等に与えることを彼に頼んだ。ハルはアオルフタフィヨルドのもっと南の泥土の入江へ（船を）入れさせ，今はサングブランドの船小屋と呼ばれている所へ彼等の船を引き上げた，しかしハルは積み荷を彼の家の柵を巡らした草地へ運び，そこにサングブランド一行が入るテントを張った。そこでサングブランドはミサを執り行った。翌日聖ミカエルの祝日（9月29日）にサングブランド一行は午後3時から祝別を行った。その時ハルはそこのテントにいた。何故お前達は仕事を止めるのか，と彼は尋ねた。

明日は大天使ミカエルの祝日だと，サングブランドが言う。
どのようなことを彼はするのかと，ハルがたずねる。
キリスト教徒達の魂の方へやって来るように彼は定められていると，
サングブランドが答える。

その後サングブランドは神の天使達の素晴らしさについてたくさん話す。これらの天使達が仕えている奴は力があるのだろうと，ハルは話した。神はお前に分別を与えると，サングブランドは話す。明日サングブランド一行が彼らの神を祝別する，そして今私はお前達がそれを役立て，そしてお前達が明日働かないことを望む，我々はキリスト教徒達の振舞いを見に行こうと，ハルは晩に家人達に行った。翌朝サングブランドは彼のテントで礼拝を行った，そしてハルと家人達は彼等の振舞いを見るために出かけて行き，鐘の音を聞き，香のかおりを嗅ぎ，ビロードと深紅色の布で飾った人々を見た。ハルは彼の家人達にキリスト教徒達の振舞いが気に入ったか尋ねた，そして彼等は満足したと言った。ハルと彼のすべての家人達は復活祭の前の土曜日にそこの川で洗礼を施された。それはその後スヴァオットアウ(洗濯の川)と呼ばれている。夏サングブランドはハルと一緒に全島集会へ行った，そして彼等がスコーガクベルヴィへいった時，異教の人々はサングブランドの下の地面を陥没させたガルトラ（魔法を知っている）ヘズィンという名前の男を抱き込む。ある日，彼等が愚行のケティルの息子のアオスビェルンの息子のキルキュバイ出身のスルト（父親の方の先祖は皆洗礼を施されていた）の家からから出た時，サングブランドの馬が地面の中へ沈んで行った，しかし彼は馬の背から飛び降り，裂け目の淵に無事に立った。サングブランドはその旅行中に多くの人々に洗礼を授けた：白いギツールとヘーカダール（鷹の谷）のハル　―　彼はその時三才だった―　そしてスケッギの息子のヒャルティ。サングブランドは集会で勇敢に神の知らせを伝えた，その時南地区と北地区の多くの人々が教

えを受け入れた。彼は集会の後出発しもっと東のエイヤフィヨルドへ行こうと思った。彼は斧のフィヨルドのサングブランド小川とミイーヴァトゥンのサングブランド池で多くの人々に洗礼を授けた，しかし彼はエイヤフィヨルドの人々の力の前にスキャアウルフアンダフリョトより先へ行けなかった。その時彼は東フィヨルドへ戻り，そこで信仰を教えた。サングブランドは南を離れ西へ行った。

8．ソルブランドの殺人とノルウェー行き

サングブランドがアイスランドの人々の前で信仰を伝えた時，多くの人々が彼を嘲笑し始めた。グリーム岬のヴィークに住んでいた病弱のソルバルドがそれを行った。彼はサングブランドについての詩を作った，そして彼はこの詩をスカルドのウールフのために作った：

私はウールフ，ウッグの息子に知らせを送るだろう
私は戦士に好意を抱いている。
彼は女々しい神の冒瀆者を追い払う。
だが我々は他の者を追い払うつもりだ。

ウールフはそれに対してこのように詩作した：

たとえ詩人が私に知らせを送っても，
私は迎えたりはしない。
おい，蝿を飲み込むのは私にはふさわしくない。
偽りの話しが動き回っている。
私は我々が大きな困難を見ると思う。

スカルドのヴェトゥルリィズィはまたサングブランドと他の多くの人々を嘲笑する詩を作った。彼等が西のフリョーツフリーズへ行った時，— レイキャホール出身のアルの息子グズレイブが彼と一緒だった — 彼らはスカルドのベトゥルリィズィが彼の召使達と一緒に泥炭堀をしていることを知った。サングブランド一行はそこへ行き，そこで彼を打ち殺した。グズレイブについて詩が作られた：

戦士は国の南で男の胸に武器を向けようとした。
抜群の戦士はスカルドのヴェトゥルリィズィの
頭の上で斧を叫ばせた。

そこから彼等は西のグリム岬へ行き，ヘストライク（馬の小川）で病弱のソルバルドを訪れ，彼をそこで殺害した。そこから彼等は戻り，二年目の冬の間じゅうハルと一緒にいた，そして春にサングブランドは彼の船の準備をした。夏にサングブランドはこの殺人故に追放を求めて訴えられた。彼は船を出航させた，そしてボルガールフィヨルドのヒイータルアオに押し戻されてしまった。そこは今スキッパヒルの下方でサングブランドの船小屋と呼ばれている，そしてそこの岩壁に彼の船のロープを固定するための石がある。しかし彼等がそこにやって来たとき，その地域出身の人々が彼等とあらゆる取引を禁止するための集会を開いた。サングブランドはクロッサアホルト（十字架の丘）に行き，ミサを執り行い，そこに十字架を建てた。ライキャルブークに住んでいたコルという男がいた。彼はどうすべきか解らない程の食料を持っていた。サングブランドはそこへ行き，食料を彼から買おうとした，しかし彼は売るつもりはなかった。彼等は食料を奪い取り，支払を預けた。コルはヒータル岬へ下り，そこに住んでいたスケッギイビェルンに苦情を言った。彼はハルと一緒にサングブランドに会いに行き，彼に略奪物を返し，それに対して償いをするよう要求した，しかしサングブランドはそれをきっぱりと拒否した。彼等はスタインホルト（石の丘）の下の低湿地で闘った。そこでスケッグビェルンと八人の男達が倒れた。そこの低湿地にスケッグビェルンの墓がある，しかし他の者達はそこの低湿地の隣のランドレークスホルトに埋葬され，そこにまだはっきり墓が見える。サングブランド側の二人の男が倒れた。だが白のギツールはその出来事を聞いた時，彼はサングブランドを家に招き，彼は三度目の冬はそこにいた。その冬サングブランドの船はヒータルアウから流され，かなり壊れ，カオルブライクの南の土地に漂着した。そこでスカルドのレーフの母ステイヌンはこの様な詩を作った：

ソールはサングブランドの長い船を
船を置いた場所から動かし，
それを揺り動かし，壊し，大地に押しつけた。
その船はもはや航海に耐えないだろう，
なぜならばソールによって引き起こされると言われている
激しい嵐がそれを破壊したからなんだ。

ソールは司祭の前で完全に船を壊した。
神々は船を押し流した。
キリストは船が壊れた時，それを守らなかった。
神がそれをほとんど護らなかったと，
私は思った。

サングブランドは賢者ゲストに会うために，春に西のバルザストゥレンドへ行った。そこでノルウェー人の凶暴な男が彼に決闘を挑んだ。サングブランドは承諾した。お前が俺の肉体的な能力を見れば，お前は敢えて俺と闘わないだろう。俺は裸足で燃えている火を越え，短剣の先端を俺の裸の身体の上へ落とす，どちらも俺を傷つけないと，その凶暴な男は言った。サングブランドは，神が決めるだろうと，答える。サングブランドは火を清め，短剣の上で十字を切った。凶暴な男は火を渡った時，足を火傷してしまった，そして彼が短剣の上に倒れた時，それが彼に刺さり，彼はそれによって死んでしまった。たとえ異教徒だったとしても多くの善良な人々はそれを喜んだ。その時ゲストと彼の何人かの友人達は一時的に洗礼を施させた。サングブランドは東行き，彼の船を修理させた。その船を彼はヤオルンメイス（鉄の篭）と呼んだ。彼はフィヨルドを越えて南のヘブンへ帆走し，入江に入り，そこで順風を待った。そこはヘブンとベルクホルトの間で，その後はヤオルンメイスヘブズと呼ばれている。彼は夏にオーラブ王に会いにスラオントヘイムに行った。

9．ヒャルティが追放の判決を下され，ノルウェーへ行く

夏の集会でサングブランドが伝えた信仰について激しい話し合いがあり，その当時何人かは非常に神を冒瀆した，しかし洗礼を施された者達は神々の悪口を言い，それによって大きく二つの派に別れてしまった。その時スケッギイの息子ヒャルティがレークベルク（法の岩）でこのちょっとした諷刺詩を作った：

俺は神々冒瀆するつもりはない，
俺にはフレイヤは雌犬だと思われる。

この風刺詩に首領イェルンドの息子のウールフの息子である首領ルノールフは答え，ヒャルティを瀆神で訴えた。彼はその瞬間に正義よりも彼の力と頑固さを示した，というのは彼がエクサルアウルブルーにいて，両方の橋のたもとを武器で守らせる以前には判決を守らせることは出来なかったのだから。それでゴズダール出身のソルケルの息子のソルビェルンが判決を引き受け判決前に事態を要約するまで，誰も事態を要約しえなかった。この法廷でヒャルティは瀆神故に三年間の追放にされた。夏に彼は故郷のスヨールスアオダールで造らせた船で外国へ行くことにした，そして船を西のラングアオ沿いに海へ向け，彼等が川沿いに下って行った時，男が川沿いに走り，手に槍と楯を持っていた。心臓があるべき所にお前のために藁筵がある，とヒャルティは彼に言った。その男はヒャルティの方へ槍を投げた，しかしヒャルティは楯を摑んだ，そこに槍がぶつかった。ヒャルティの部下達は陸に跳び上がり，彼を捕らえ，彼が誰だか尋ねた。彼はナルブイというと言った，そしてルノールフがヒャルティの首のために送ったのだ，（もしヒャルティを殺せば）彼は

追放を免除されることになると話した。私はお前により良い忠告が出来る。お前は私と一緒に外国へ行く，そして私はお前を追放から解消するだろうとヒャルティは話した。ヒャルティは外国へ行き，秋に北のスラオントハイムにオーラブ王を訪ねて行った。その時彼の親戚の白いギツールがアイスランドからやって来ていた。

１０．ギツールとヒャルティがキリスト教の教えを受け入れる

オーラブ王はハオロガランドをキリスト教に改宗さ，彼は秋にニザロースへ行った。そこには船を自由に出来る多くのアイスランド人達がいた。孔雀のオーラブの息子のキャルタン，アースゲイルの息子のカオルブとソルレイクの息子のボリが一隻の船を率いてた。また力のあるグズムンドの息子のハルドール，フレイの神官ソールズの息子のコルベイン，首領ルノールフの息子のスベルティング，オータルの息子のハッルフレーズ，ネフョールクの息子のソーラリンが船を統率していた。これらは皆異教徒だった。彼らは町の前にいて，陸に沿って南へ行こうと思っていた，しかし王が北から来る前に，彼らは順風を得られなかった。人々が町から泳ぎに行ったのは良い天気の日だった，そして船に乗った時，彼らは一人の男が他の人々より上手な泳ぎ手であることに気がついた。ソルレイクの息子のボリは彼の友人のキャルタンに，何故お前はその有能な男と泳ぎを競わないのか，と話した。キャルタンは私は彼と泳ぎを競うつもりはないと話した。お前の競争心は何処へ行ってしまったんだとボリは言い，服を放り投げた。その時キャルタンは飛び上がり，服を脱ぎ，ボリに落ちつくように頼んだ。キャルタンは飛び込み，男に襲いかかり，彼を沈め，しばらくの間下に押さえつけた。その後彼等は浮き上がり，キャルタンは彼をもう一度沈め，キャルタンが浮き上がろうとした時，その男がキャルタンを握まえ，しばらくの間彼を押さえつけた。三度目にその男はキャルタンを沈め，彼を長い間下に押さえつけたので彼は窒息するところだった。それから彼等は陸へ泳いで行った，そしてこの男はキャルタンに，彼が誰と水泳で競ったのか，彼が知っているかどうかと尋ねた。彼はそれを知らないと言った。彼はキャルタンに緋色のマントを与え，彼が誰と水泳で競ったのか解るだろうと彼に言った。キャルタンはこの男がオーラブ王だと気がついた。彼は彼に高価な贈り物のお礼を言った。キャルタンが王から贈物を受け取った時，異教の人々はそれにに不満を表明した。聖ミカエルの祝日（９月２９日）に多くのアイスランドの人々はミサを聞き，キリスト教の人々の風習を見るために出かけ，戻って来た時，彼等は彼等の振る舞いがどの様に彼等に気に入ったか互いに話した。キャルタンと他の小数の者は満足したと言った。王はすぐにそれを知り，キャルタンを呼び，彼がキリスト教を受け入れるつもりかどうか尋ねた。キャルタンはそうすることが出来るので，拒まないだろうと言った。彼が何を望んでいるか，王は尋ねる。「私がここに来ないとしても，私がアイスランドで期待するより少ない名誉を貴方が私に与えないことを」。王はそれを承諾した。キャルタンは洗礼を施さ

れ，彼が白い洗礼用の服[9]を着ている間，（王宮に）招待された。その時司祭サングブランドがアイスランドから王の所へやって来て，どの様な敵意を人々がそこで彼に示したかを話し，キリスト教がそこで実現されるだろうということは期待出来ないと説明した。その時王は怒り，彼は多くのアイスランド人達を捕らえ，鎖につながせ，何人かを殺害し，何人かの（身体の）を切断すると脅した。そして何人かは（持ち物を）奪われた。彼等の父親達がアイスランドで彼の知らせを不名誉に受け入れたことに対して彼等に償いをさせようと王は言った。ヒャルティとギツールはその時人々のために頼み，（彼等は）人々が洗礼を受けるなら，あらかじめ平和がないということを準備する必要はないと，王が話したと，言った。ギツールは王との彼の親戚関係を引き合いに出した。彼の母アオレーフはヴァイキング・カオリイの息子の首領のベズバールの娘だった，そしてオーラブ王の母アオストリーズはベズバールの兄弟のエイリークの娘だった。思慮深く行動したならキリスト教がアイスランドで認められることは期待出来ると思うとギツールは話した。しかしサングブランドはそこでここと同じようにかなり言語道断に振る舞い，彼はそこで何人かの人々を殺した，そして人々には外国の男からそれを取り入れるのは難しく思われた。オーラブ王は，お前とヒャルティがキリスト教がアイスランドで認められる企ての指揮を約束するなら，すべての人々は平和を持つだろう，しかしこの取り決めがどうなるか知る迄，アイスランド人の中で一番適当だと思われる人々を，私は人質に取るだろうと，言う。このために王はオーラブの息子のキャルタン，力のあるグズムンドの息子ハルドール，フレイの神官ソールズの息子のコルベイン，焼き殺しのフロスイの兄弟，首領ルノールフの息子スベルティンクの名前を挙げた。スベルティンクの名前が話された時，彼の父がヒャルティを罪が無いのに訴え，ヒャルティが彼を言葉で助けたので，スベルティングはふさわしくないと一人の男が話した。サングブランドはヒャルティは敵対する者より良い物を持つということをしばしば示すだろう，主よ，ヒャルティとギツールを親切にお迎え下さい，何故ならば彼等はしばしば善で悪しき状況に報いるからなんだと答える。ヒャルティとギツールは王の知らせをアイスランドで広めることを承知した，しかしその後そこにいたすべてのアイスランド人達は解放され，洗礼を施された。オーラブ王はハッルフレーズの代父を勤めた，彼はそうでなければ洗礼を受けることを望まなかったので。その時王は彼を面倒なスカルドと呼び，彼に命名に際し剣を与えた。ギツールとヒャルティは冬は王と一緒にいた，そしてギツールは封臣達より内側で乾杯する王に向かいあって座った。王と共にアイスランド人の人質達は良い取扱いを受けた。

１１．キリスト教が法律で取り入れられたことについて

春にヒャルティとギツールはアイスランドへの船を用意した。多くの人々がヒャルティにそのことを思いとどまるように忠告した，だが彼はそれを気にかけなかった。夏にオー

ラブ王は国から南のヴィンランド行った。その時彼はエイリークの息子レイフを教えを知らせるためにグリーンランドへ送った。その時レイフは素晴らしいヴィーンランドを見つけた。彼はまた海で難船した人々を見つけた。それ故彼は幸運のレイフと呼ばれた。ギツールとヒャルティは焼き殺しのフロシィがアルナールスタックスヘイズを越えて全島集会に行った日に，ディルホールマオース前に到着した。その時彼（フロシィ）は彼等の方へ漕ぎ寄せて来た人々から彼の兄弟のコルベインが人質に取られたことと，ヒャルティ一行の任務についてのすべてを知り，彼はこれらの出来事を全島集会で話した。彼等は同じ日にヴェストマン島に着き，彼等の船をヘールガエイルに着けた。そこに彼等は彼等の衣服と，彼等が桟橋を造った所に教会を建てるように決められオーラブ王が切らせた，教会建築用の材木を運んだ。教会が建てられる前に入り江のどちら側に置くかくじで決められ，北側になった。そこは以前偶像と石の祭壇があった。彼等は国に入る前に二日島にいた。人々が集会に行った日のことだった。彼等はラングアオの東で旅行に必要な物も乗馬も手に入れられなかった，何故ならばそこではどの家にもルノールフの支持者達がに住んでいたからなんだ。彼等はハオフのアオスゲートの息子のスケッギイの所まで行った。彼は集会への馬を彼等に与えた，だがヒャルティの姉妹コルトオルヴァを妻にしていた彼の息子のソルヴァルドは以前に出発していた。彼等はレーガルダールに行った時，ヒャルティが十二人の男と残るということを守った，何故ならば彼は追放された男[10]だったからだ。ギツール一行はエールフースヴァトゥンのヴェラッアントンカトラ迄行った。その時彼等は，彼等の友人達と親戚の者達が彼等の方へやって来るようにと，知らせた。彼等はその時，彼等の敵達が彼等の集会場所への立ち入りを拒もうと考えているということを知った。彼等がヴェラッアントカトラを去る前に，ヒャルティ一行がそこにやって来た，その時彼等の親戚の者達と友人達が彼等の方へやって来た。それから彼等は大勢の人々と集会へ行き，ギツールの姉妹の息子のエリズィ・グリームの息子のアオスグリームのテントへ行った。その時完全武装した異教の人々が集まり，すんでに殴り合いを始めるところだった，だがキリスト教徒ではないにもかかわらず面倒を避けるつもりの幾人かの人がいた。オーラブ王がヒャルティとギツールに世話してやった司祭はソルモーズという名前だった。彼は翌日ヴェストフィヨルドの人々のテントの上の峡谷の縁でミサを執り行った。そこから人々はレークベルク（法の岩）へ行った。そこでは七人の人々が華やかに着飾っていた。現在スカルズの東にある二つの十字架を彼等は持っていた。一つはオーラブ王の崇高さを，もう一つはスケッギイの息子のヒャルティの崇高さを表した。レークベルク（法の岩）にはすべての集会参加者がいた。ヒャルティ一行は燃えている香を持ち，風に向かっているのに風の前のように香を感じた。その時ヒャルティとギツールは彼等の知らせを上手に，勇敢に伝えた，しかし人々はどうして彼等が勇敢で，どうして彼等が上手に話したのか不思議に思った，そして大きな恐れが彼等の言葉に従ったので，彼等の敵のうち一人として彼等

に敢えて反抗しようとしなかった。次々に証人の名前を挙げるということが起こった，そしてキリスト教と異教の人々の各派が互いに法律共同社会[11]の解消を通告した。その時男が走って来て，エルフスで火山が噴火し，それは首領ソーロッドの屋敷に及ぶだろうと話した。その時異教の人々は，神々がそのような話に腹を立てるのは不思議ではないと話し始めた。その時首領スノリは今我々が立っているここの溶岩の土地が燃える時，神々は何について腹を立てたのか，と話した。その後で人々はレークベルク（法の岩）から去った。その当時キリスト教の人々はシーザ・ハルがキリスト教に従うよう彼等の法律を通告するように頼んだ。当時法を話す人の職を占めキリスト教徒及び異教徒どちらにも法を通告した首領ソルゲイルをハルは銀５０で買収した，彼は当時洗礼を施されていなかった。人々がテントに入って行った時，ソルゲイルは横になり，羊の毛皮で頭を覆い，一日中そして翌日の同じ時刻まで横になっていた。異教の人々はその時大勢の人々を集め，集会を行い，各地区の二人の男を犠牲にすることを決定し，キリスト教を国に広まらせないよう異教の神々に頼んだ。ヒャルティとギツールはキリスト教の人々ともう一つの集会を持ち，彼らは異教の人々と同じ人数の人間の犠牲を持つつもりだということを，説明した。彼等は，異教徒達は一番悪い人達を犠牲にし，彼等を岩や切り立った岩壁の前で突き飛ばす，しかし我々は美点に関して選ぼう，そして我々の主イエスキリストに基ずいて勝利の犠牲と呼ぼう。それ故我々は以前より良くそしてより罪を避けるよう用心して用心して暮らすべきだ，そして我々二人，ギツールと私は我々の地区のための勝利の犠牲に赴くだろう，と話した。東フィヨルド地区のためにシーザのハルとセイザールフィヨルド出身のソーラリンの兄弟であるレイザールフィヨルドィヨルドの北のクロスヴィーク出身のソルレイブが出かけて行った。インギレイフが彼等の母だった。彼をデブのケティルがキリスト教故に矢のヘルギの同意を持って召喚した。その時天気が悪くなったので，ケティルはソールレイフの所へ晩に行き，素晴らしいもてなしを受け，喜んだ。それ故召喚は中止になった。そして北地区出身者からは勝利の犠牲のために老フレンニイと賢者ベーズヴァルの息子のソルバルズが出かけ，西フィヨルド地区からはオッドレイフの息子のゲストが出かけて行った。そこでは他に誰もいなかった。それがヒャルティとギツールに気に入らなかった。その時コズラオンの息子のオルムが話し始めた　―　彼はギルスバッキイに宿泊していた，何故ならばイルギの息子のヘルムンドが彼の娘グンヒルドと結婚していたからなんだ　―　私の兄弟の広く世界を旅したソルバルドが私と同郷ということを思い出すだろう，そして貴方が私を歓迎するつもりなら，私は行くだろう。彼等はそれを承諾し，彼はその時すぐに洗礼を施された。翌日ソルゲイルは法の岩へ来るようにと言う知らせをテントへ送った。人々が法の岩へやって来ると，人々がこの国に法を持たないと予期せぬ事態に入ってしまうと彼には思われると彼は話し，人々がそうしないように彼は頼み，戦いと不和を起こさず，荒廃を準備しないよう話した。彼はまた一人はデンマークにいたダーグ，もう一人は

ノルウェーにいたトゥリュグビィという王達，つまり彼等は長いこと彼等の間で戦いを行い，両国の住民達が暴力をし使用し，その結果彼等（王達）が望まなかった平和を彼等の間でなしたことについて話した。取り決めがなされたので彼等は彼等の間で数年内に贈物をし，両者が生きている間の彼等の友好関係を守った，ここで夢中になって敵対している者に決めさせないことが得策だと私には思われる，両派の内の各々が何らかの点で言うことが正しいことを彼等の間で（我々は）仲裁する，しかし我々すべては一つの法と一つの風習を持つ，何故ならばそれが本当だろう：我々が法を引き裂くと，我々は平和を引き裂く。ソルゲイルが話を止めたので両派のは彼が朗読する法を持つことを承諾した。すべてのアイスランドの人々は洗礼を施され，一つの神を信じるべきだ，だが古い法にある（やむを得ない場合の）子捨てと馬の肉を食べるということは続けてもいいだろう，人々は望むなら密かに犠牲を捧げるべきだ，しかし証人を立てることが出来ると三年間の追放にすべきだ，と言うのがソルゲイルの決定だった。異教徒的行為は二～三年後に除去された。すべての北の人々と南の人々は集会場から出かけて行ってレークダール（温泉の谷）のレイキャレーク（煙の温泉）で洗礼を施された，何故ならば彼らは冷たい水の中へ入りたがらなかったからなんだ。ルノールフが洗礼を施された時，ヒャルティは話した：我々は年取った首領達に塩を噛むことを[12]教える。家に帰った時，すべての集会に集まった人々はその夏に洗礼を施された。かなり多くの西の人々はレイキャダールの南のレイキャレークで洗礼を施された。首領スノリは西フィヨルドの人々の許ではほとんど成し遂げた（大多数に洗礼を受けさせた）。

１２．司教イースレイフとギツールについて

キリスト教が法律でアイスランドに取り入れられた夏に我々の主イエスキリストの誕生から１０００年が過ぎ去った。夏の９月９日にオーラブ王はスヴェルズの南で長い蛇をなくした（軍船を失い，戦死した）。その時彼はノルウェーの王となって５年目だった。彼の後ヤール　ハーコンの息子エイリークが国の支配権を受け継いだ。コズラオンの息子ソルヴァルドとソルギールの息子ステブニィはオーラブ王が姿を消した後に会った。彼ら二人は一緒に広く世界を旅し，南のエルサレム迄行き，そこからコンスタンチンノープルへ，そしてドニエプル川[13]に沿って東のキエフ[14]へ行った。ソルヴァルドはロシアのポロックの近くで死んだ。バプチストのヨーハンネス教会の近くの山の中に埋葬され，彼等は彼を聖者と呼ぶ。世界を旅行したブラントは話す：

私は行った。
キリストがコズラオンの息子ソルヴァルドに
休息を与えた所へ。

彼はそこヨーハンネス教会の近くの
ドゥレブンの高い山に埋葬されている。

ステヴニィは北のデンマークへ行った。彼はデンマークに着いた時，この詩を作った。

国王スヴェインを欺いておびき寄せ
トゥリッグの息子を欺いた
彼の名前を挙げるつもりはない。
妬む奴の鼻は下に曲がっている。

ヤール　スィグヴァルトはこの詩が自分自身を指していると思い，それ故に彼はステヴニィを打ち殺させた。そのように老アリは話した。白のギツールはスカオラホルトに屋敷を建て，住まいを移す以前にヘーブザに住んでいた。彼はすべての考えをキリスト教を強めることに向けた。彼は彼の息子イースレイフを南のザクセンへ送った，そしてヘルブルザと呼ばれている都市の学校へ行った。彼はアイスランドへ戻った時，ソルヴァルドのダーラを妻にし，彼らの息子はギツール，ヘーカダールの活動的なテイトとソルヴァルドだった。ここには最初外国人の司教達がいて，キリスト教教理の授業を行った。しかし住民達はイースレイフがどのくらい素晴らしい聖職者か知った時，住民達は彼が外国へ行き，司教に叙階されることを頼んだ，そしてそれを彼は受け入れた。彼が司教に叙階されたのは５０才[15]の時だった。その時法王はレオ９世だった。彼は翌年ノルウェーに留まり，それからアイスランドへ戻った，そして２４年間司教だった。彼は多くの高貴な人々を教え，司祭に叙階した，そして彼等の中からその後二人の司教が出た，エグムントの息子聖ヨーンとヴィーク（ノルウェー）出身の司教コルだった。司教イースレイフはスカオラホルトで７月５日[16]に死んだ。それは主の日(日曜)だった。彼は２４年間司教だった。その時はトゥリュグヴァの息子のオーラブ王が姿を消してから８０年が過ぎ去っていた。ここにかかれている出来事について多くを伝えている学識あるアリは彼の埋葬後１２年生きた。司教イースレイフの死後国の住民達は彼の息子ギツールに彼が叙階されるよう頼んだ。彼は外国へ行き，司教イースレイフの死後２年，ノルウェー王平和のオーラフ王の統治の時司教に叙階された。その時ローマには法王グレゴリウス７世がいた。ギツールは一年後デンマークで司祭品級をし，翌夏にアイスランドへ戻った。そして彼が一年をアイスランドで過ごした時，スケッギィの息子マルクースが法を話す者の職を占めた。彼はスカフティを除いてアイスランドで法に通じた男達の中で一番賢かった。司教ギツールは国の人々に人気があったので，誰もが彼の命令と禁止に耳を傾けるつもりだった，そして司教ギツールの人気，アイスランドで一番の学者だった学識ある司祭サイムンドの話，法を話す者のマルクー

スの忠告によってかなり多くの首領達はすべての人々が自分の所有物を話し，評価し，土地や動産が正しいということを宣誓する，ということを法に取り入れた，そして十分の一税を納めさせた。あるがままにすべての土地と家畜が評価され，それを実現した男に国の人々がどのように従わされたかが，とても重要なんだ。そして植民されている間そうあるように法に取り入れられた。

１３．ギツールの司教の監督について

司教ギツールはアイスランドにある司教座聖堂所在地をスカオラホルトに置くと法によって定め，司教座聖堂にそこの土地を，そして土地と動産で他の多くの富を献呈した。彼が望んでいたように司教座聖堂所在地が立派になったと彼に思われた時，北地区の人々がアイスランドには一つより二つの司教座聖堂所在地があるほうが良いと彼に頼んだため，司教区の４分の一以上を与えた。前もって彼はアイスランドのすべての農民を数えさせ，東地区には７００人，南地区には１０００人，西地区には９００人，北地区には１２人だった，そして全島会議へ行く税金[17]を支払わねばならない者一人一人が数えられた。司教ギツールが司教になって２５年たった時，グンナールの息子ウールブヘズィンが法を話す者の職を受け継ぎ，マルクースが死んだ。その時フラブンの息子ベルクソールが法を話す者の職を受け継いだ。彼が法を宣言した最初の夏に，マオの息子ハブリーズィが，ベルクソールと他のより賢い人々の忠告で翌冬法を書き留めるという新しいことがなされた，そして古い法より良いと彼らに思われるすべての新しいことを彼らはする事になった。翌夏それらを宣言することになり，かなり多くの人々が反対しなかったものはすべて残された。その時法の中に戦いと故殺についての章及び多くのその他の事が書き留められ，翌夏立法府で朗読され，それはすべての人々に気に入った。彼が司教に叙階された時，司教は４０才だった，そして彼が司教になって２４年たった時，ヨーンつまりエグムンドとエィッルの娘のソルゲルズの息子が司教に叙階された。エィッルはシーザ・ハルの息子だった。その時ヨーンは５４才[18]だった。彼はヒャルタダールのホーラルの最初の司教だった。司教ギツールは国にうまく平和をもたらしたので，首領達の間で大きな争いは起こらず，武器の使用はほとんど終わった。その時ヘークダールのテイトの息子ハル，学識あるサイムント，レイキャホルトのソールズの息子のマグヌース，バイのイェルントの息子のシーモン，ヒャルザルホルトのブラントの息子のグズムント，学識あるアリ，ホールのエイナールの息子のインギムント，マッダーヴェルのソルステインの息子の北のケティル，グズムントの息子のケティル，ソルバルズの息子の司祭ヨーンのように首領だとしても多くの声望ある人々は学識があり，司祭に叙階された，そして書かれないとしても他の多くの人々が。司教ギツールは彼の生存中にソルレイクの息子のルノールクの息子ソルラオクを司教に叙階させた。その時ソルラオクは３２才だった。司教ギツールは彼が司教になって３６年たっ

た時，スカオラホルトで死んだ。それは司教ソルラオクが叙階された時より３０日後のことだった。それは火曜日で5月２８日だった。その年に法王パスカオリーウス，東ローマ皇帝キルヤラックス，エルサレム王バルトヴィン，エルサレムの総司教アルナルドゥスそしてスウェーデン王フィリプゥースが死んだ。その時アイスランドは植民されて２１２年たっていた，一方は異教で，一方はキリスト教で。その時，主イエスキリスト，我々の主の誕生後１１１８年が過ぎていた。

１４．首領達の話，マオの息子ハブリーズィについて等

司教ギツールが死んだ年にアイスランドで大飢饉が起こった。聖週間の最後の３日間に嵐がやって来て，国の北の部分のいくつかの地域の教区で人々はミサを執り行うことが出来なかった。そして聖金曜日にエイヤフャルの下へ商船が押し流され，空に巻き上げられ，転覆した。それには２７の漕手席があった。復活祭の初めに小数の人が聖餐を受けるためにミサに行くことが出来たが，何人かは外で死んでしまった。彼の死後人々が集会に行ったが悪天候になった。その時シグルズの息子の若きハラルド王が教会のために木を切らせて造った全島集会場にある教会が壊れた。夏に３５隻の船がこちらへ（ノルウェーから）やって来た，そして多くは陸地にぶつかって壊れ，何隻かは人々の下の海で壊れてしまった，前もってここにあったものとあわせて８隻だけが助かった。それらは聖ミカエルの祝日の前には到着しなかった。多くの人々によってここは大飢饉となった。司教ギツールが死んだ時，アイスランドには多くの首領達がいた：北ではマオの息子ハブリーズィとスカギフィヨルドのアルノールの息子のアオスビェルンの息子達，ハルの息子ソルゲイルとソルステインの息子司祭のケティル，東ではエイナールの息子ギツール，ソルゲイルの息子シグムント，― 彼はローマ旅行の年に死んだ ― 南ではテイトの息子ハル，エギルの息子スクーリイ，そして西ではフレインの息子スティルミル，エギルの息子ハルドール，オッドの息子ソルギルス，エギルの息子ソールズ，ヴァトゥンフィヨルドのソルバルドの息子ソールズ。司教ギツールの死後一年して名望ある男ハルバルズの息子ソルステインが殺された，そしてその一年後集会に多くの人が集まった。その年多くの人が死んだので，司祭賢者セームントは集会で，少なくない人々が病気によって死んだのに人々は集会にやって来たと話した。夏の法廷ではものすごい人だかりがした。オッドの息子ソルギルスがマオの息子ハブリーズィに懇願した。その時は法に基ずいて訴訟は判決が下されなかった。ソルギルスは暴力行為故に追放となり，冬の間追放された。その時はほとんど武器を携帯せず，全島集会では兜だけだった，そしてアイスランドにいた農民がたくさん集会にやってきた。司教ギツールの死から三年過ぎた春，４月２３日にホーラルの司教ヨーンが死んだ。夏マオの息子ハブリィズーが１２００人の男と集会へやって来た，そしてオッドの息子ソルギルスが７００人の男と。彼らはソルギルスがハブリーズィに自分自身の判

決[19]を委ねたので集会で折り合いがついた，そして彼は普通の家畜の価格に基づいて算定した６００６エレの価値を金，純銀或いは高価な財産で支払った。彼，ハブリーズィが評価することになった，或いは彼が選ぶ人々が。夏に彼は司教ヨーンの代わりにマーズラヴェル出身のソルステインの息子ケティルを司教に選び，その夏に外国へ行った。マオの息子ハブリーズィは最初ストゥーラの息子ソールズの娘スウリィーズと結婚した。彼らの息子はソールズと言った。彼はソールハルの息子アオスグームの娘ソールヴェルと結婚した。彼らの息子はイーバルと言った。ハブリーズィはその後ヘーカダール出身のテイトの娘ランベイクと結婚した。ヴァトゥンフィヨルドのソールズと結婚した彼等の娘はスィグリーズと言った。ソールズとパオルは彼らの息子達だった。ハブリーズィのもう一人の娘はバルゲェルズと言った。彼女と司祭インギムンドが結婚した。インギムンドはイルギとオルニイの息子だった。オルニイはゲッリの息子ソルケルの娘だった。彼はヴェストゥルホープのブレイザボールスターズに造ろうと思った，彼等の石造りの教会へ石灰を運んだ時に溺死したイルギは彼等の息子だった。そしてトリッュグの息子オーラーブ王がマリアのミサの翌日長い蛇で戦ったのより五日前にヤール・冷淡レグンヴァルトは殺害された。

翻訳には以下のテキストを使用した。

Gudni Jónsson: Íslendinga Sögur. Bd. 1. Íslendingasagnaútgáfan. 1968.
Sammlung Thule Bd.23. Das Buch von der Einführung des Christentums.1967
Altnordische Saga-Bibliothek. Bd.11.

注

1）アイスランドへのキリスト教の伝導，全島集会での国教とする決定，司教イースレイフとギツール等について伝え，十三世紀初めに書かれたと思われる。
2）アイスランドから見て南にあたるドイツ北西部のザクセン。
3）インゴルフがアイスランドに植民したのを８７４年とする。
4）豊穣の女神。
5）berserkr　異教時代の凶暴な戦士。
6）９８４年。
7）当時法律は口頭で伝承され，この岩の上から布告された。レイキャヴィークの東約６０km全島集会場にある。
8）中世北欧で活躍した武芸にも優れた詩人。
9）洗礼を受けた後これを一週間着用する。
１０）九章参照。
１１）同じ法律を受け入れない事。
１２）洗礼に際し、新たな回宗者に聖別した塩を与えた。
１３）・１４）Íslendinga Sögurの注による。
１５）１０５６年。

１６）１０８０年。

１７）全島集会へ行かない農民達によって支払われる税金，全島集会に呼ばれた者の旅費に使われる。

１８）１１０６年。

１９）争いごとで判決を他の人に任せる，その際相手方の譲歩が重要だが，ひどい扱いを受ける事もある。